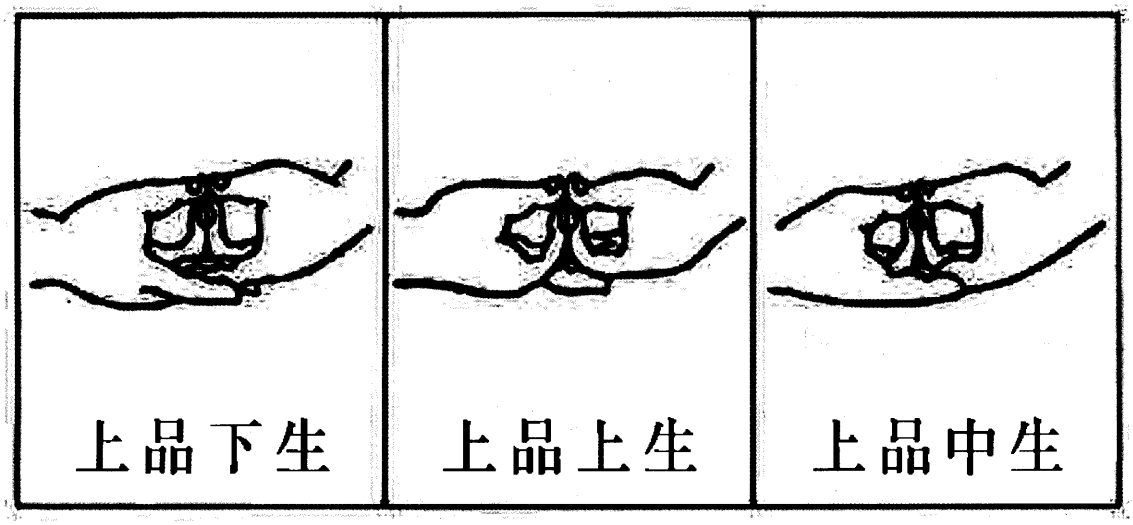
じょう　ぼん　どう

上品堂



浄眞寺

東京都世田谷区奥沢 7-41-3

「観無量寿経」の九品について

浄土宗の所依の経典である浄土三部経の中の「観無量寿経」には、極楽に往生を願う人の性質や行業（行為）によって、九種に分けられた往生人の階位について説明されております。

またこの階位に応じて往生のありさまや往生後の得益についても、それぞれ相違が生じて参ります。

ここでいう九種の階位とは、上品・中品・下品という三つの階位のそれぞれを、更に上生・中生・下生に分けて、上品上生から下品下生までの九階位としたものであります。これを行業の面に限って略説しますと……

上品上生とは・・・

至誠心・深心・廻向発願心の三心を具足する事であります。

次に慈悲心をもって殺生をせず、菩薩の大戒をたもち、大乗経典を読誦することであります。

そして仏・法・僧・戒・捨・天の六念法を修行し、この功徳をもって往生を願う人であります。

この人は臨終の時にあたり、阿弥陀仏と観音・勢至および浄土の大衆の来迎をうけ、**金剛台に乗って浄土に往生し、ただちに仏や菩薩の御姿を拝し、**光明や宝樹の説法を聞いて無生法忍を得て、諸仏より未来成仏の予言をうけるのであります。

上品中生とは・・・

大乗経典を読誦はしないが、その教えを理解する人をいいます。

つまり大乗の諸法皆空の道理を理解し、世出世の因果を信じ、この功徳をもって廻向して往生を願う人であります。

この人は命終にあたり、阿弥陀仏と観音・勢至および無数の眷属の来迎をうけ、**紫金蓮台**（しこんれんだい）**に坐して往生**されます。**一夜を経て蓮華が開き**、仏の教えを聞いて、七日を経て不退転（ふたいてん）に入り、一小劫（いちしょうこう）①を経て無生法忍（むしょうほうにん）②を悟るといわれます。

上品下生とは・・・

因果の道理を信じて、大乗の教えを誹謗することなく、菩提心を発す人であります。そしてこれらの功徳を廻向して往生を願う人であります。

この人は臨終にあたり、阿弥陀仏と観音・勢至および浄土の眷属の来迎をうけ、**金蓮台**（こんれんだい）**に乗って往生**します。**一日一夜を経て蓮華が開き**、三七日を経て仏を明瞭に拝する事ができて、水鳥や樹林の妙法を聞きます。三小劫（さんしょうこう）①を経て菩薩（ぼさつ）の初地（しょち）③に入ります。

① 一小劫・三小劫	きわめて長い時間の単位
② 無生法忍	一切は空であり、実相を悟る
③ 菩薩の初地	菩薩の階位で第 52 位中第 41 位

九品佛縁起から大正大学名誉教授 大本山 善導寺法主阿川文正台下 記述より抜粋
（詳しくは九品佛縁起（有料）をご覧下さい）

上品上生（じょうぼんじょうしょう）の往生（おうじょう）を願いましょう

私達は亡き方々とは、この世で二度と再会することが出来ません。亡き人はどうなるのでしょうか？

生前に阿弥陀佛にすがり、お念佛を称えた人であれば、阿弥陀佛の本願の力により、極楽浄土の蓮華中に往き生まれることが出来ます。

九品往生中、上品上生に往生の人は、蓮華が即開きますが、上品各生に往生できる人は、極稀でしょう。

下品下生に往生の人は、蓮華が開くまでに極めて長い時がかかると言われております。

そこで、亡き人が極楽浄土に往生し、蓮華が開く喜びの日が一日も早く訪れることを願い、残された私達が法事を勤め、念佛を称えて亡き人の為に、念佛の功徳をご廻向させて頂くのです。

そしていずれ、故人と極楽浄土での再会を期するのです。

上品は、大乗に遭える凡夫、中品は、小乗に遭える凡夫、下品は、悪に遭える凡夫と各々に遭遇するご縁によっています。

しかも九品の総ては凡夫であると法然上人は教示します。

今私もここに大乗の究竟、念佛に値遇を得ました。さあ念佛申し上品往生を願いましょう。

更に幸いにも淨眞寺には、「二十五菩薩来迎会」の伝統行事があります。この行事は、まさに上品上生に往生する様姿そのものであります。

亡き方のお位牌を抱き、菩薩行者を勤めることは、何にも代え難きご供養となり、品位の増進、又早くに蓮華が開くことになりましょう。

この菩薩行者を勤められた方々は諸佛・諸菩薩の護念を蒙り、父母であれば無上の報恩行、夫婦であれば無上の謝恩行、またご自身の積徳行として、老若男女問わずお申込み出来ます。

次回の奉修は2020年5月5日です。

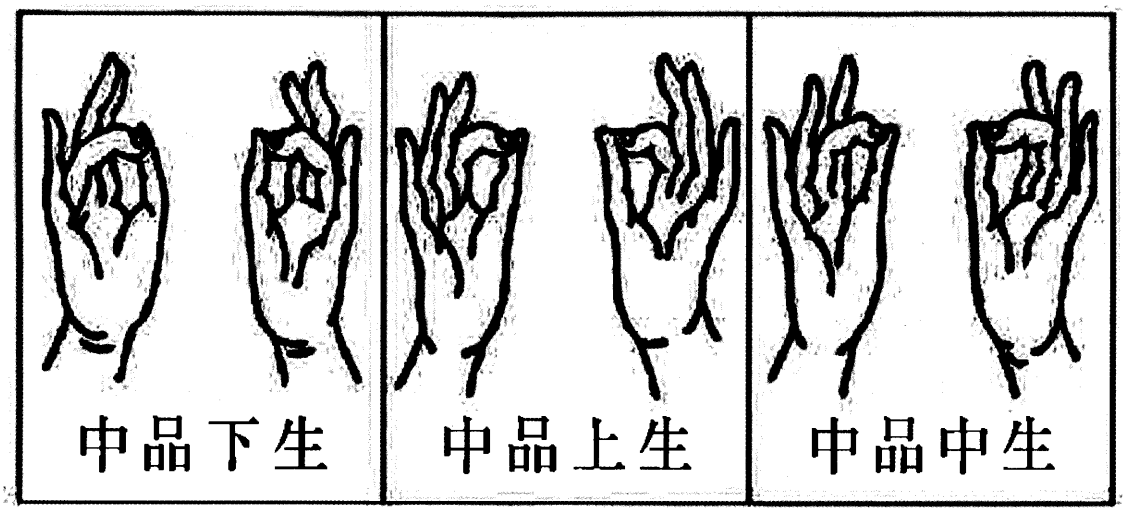
お申込みお問い合わせは、淨眞寺03-3701-2029まで。

只今、九品阿弥陀佛の大修繕大勧進を行っております。
大勧進にご結縁下さい。

2018. 3. 5,000

ちゅう　ぼん　どう

中品堂



浄眞寺

東京都世田谷区奥沢 7-41-3

「観無量寿経」の九品について

浄土宗の所依の経典である浄土三部経の中の「観無量寿経」には、極楽に往生を願う人の性質や行業（行為）によって、九種に分けられた往生人の階位について説明されております。

またこの階位に応じて往生のありさまや往生後の得益についても、それぞれ相違が生じて参ります。

ここでいう九種の階位とは、上品・中品・下品という三つの階位のそれぞれを、更に上生・中生・下生に分けて、上品上生から下品下生までの九階位としたものであります。これを行業の面に限って略説しますと……

中品上生とは・・・

小乗の五戒や八戒斎などをたもち、五逆罪なども犯さず、これらの功徳を廻向して往生を願う人であります。

この人の臨終には阿弥陀仏が眷属とともに来迎され、仏の教えをきいて、**蓮華台に乗って往生**されます。**ただちに蓮華が開き**、四諦の教えを聞いて、阿羅漢①の位に入って、八解脱の知恵を得るとされています。

中品中生とは・・・

小乗の一日一夜の八戒斎や沙弥戒や具足戒をたもち、身・口・意三業の威儀をまもり、これらの功徳を廻向して往生を願う人であります。

この人は臨終に阿弥陀佛および眷属の来迎をうけ、**七宝蓮華**（しちほうれんげ）**に包まれて往生**します。そして**七日を経てのち華が開き**、教えを聞いて須陀洹果（しゅだおんか）②を得て、半劫（はんこう）③ののち阿羅漢を得るとあります。

中品下生とは・・・

社会的善根たる五倫五常の道、いわゆる父母に孝養をつくし、世間の道徳をよく守り、慈悲をほどこし、この功徳をもって往生を願う人であります。

この人は臨終にあたり善知識（正しく浄土に導く人）より極楽や阿弥陀仏の四十八願などのことを聞いて命終します。そして**ただちに浄土に往生し**、観音・勢至の両菩薩より教えを聞いて、一小劫（いちしょうこう）③を経て阿羅漢の位に入るとあります。

① 阿羅漢	小乗仏教で、修行によって得られる四果の最高位で尊敬を受けるに値する人
②須陀洹果	小乗仏教で修行で得られる四果の初果
③半劫・一小劫	きわめて長い時間の単位

九品佛縁起から大正大学名誉教授 大本山 善導寺法主阿川文正台下 記述より抜粋
（詳しくは九品佛縁起（有料）をご覧下さい）

上品上生（じょうぼんじょうしょう）の往生（おうじょう）を願いましょう

私達は亡き方々とは、この世で二度と再会することが出来ません。亡き人はどうなるのでしょうか？

生前に阿弥陀佛にすがり、お念佛を称えた人であれば、阿弥陀佛の本願の力により、極楽浄土の蓮華中に往き生まれることが出来ます。

九品往生中、上品上生に往生の人は、蓮華が即開きますが、上品各生に往生できる人は、極稀でしょう。

下品下生に往生の人は、蓮華が開くまでに極めて長い時がかかると言われております。

そこで、亡き人が極楽浄土に往生し、蓮華が開く喜びの日が一日も早く訪れることを願い、残された私達が法事を勤め、念佛を称えて亡き人の為に、念佛の功徳をご廻向させて頂くのです。

そしていずれ、故人と極楽浄土での再会を期するのです。

上品は、大乗に遭える凡夫、中品は、小乗に遭える凡夫、下品は、悪に遭える凡夫と各々に遭遇するご縁によっています。

しかも九品の総ては凡夫であると法然上人は教示します。

今私もここに大乗の究竟、念佛に値遇を得ました。さあ念佛申し上品往生を願いましょう。

更に幸いにも淨眞寺には、「二十五菩薩来迎会」の伝統行事があります。この行事は、まさに上品上生に往生する様姿そのものであります。

亡き方のお位牌を抱き、菩薩行者を勤めることは、何にも代え難きご供養となり、品位の増進、又早くに蓮華が開くことになりましょう。

この菩薩行者を勤められた方々は諸佛・諸菩薩の護念を蒙り、父母であれば無上の報恩行、夫婦であれば無上の謝恩行、またご自身の積徳行として、老若男女問わずお申込み出来ます。

次回の奉修は2020年５月５日です。

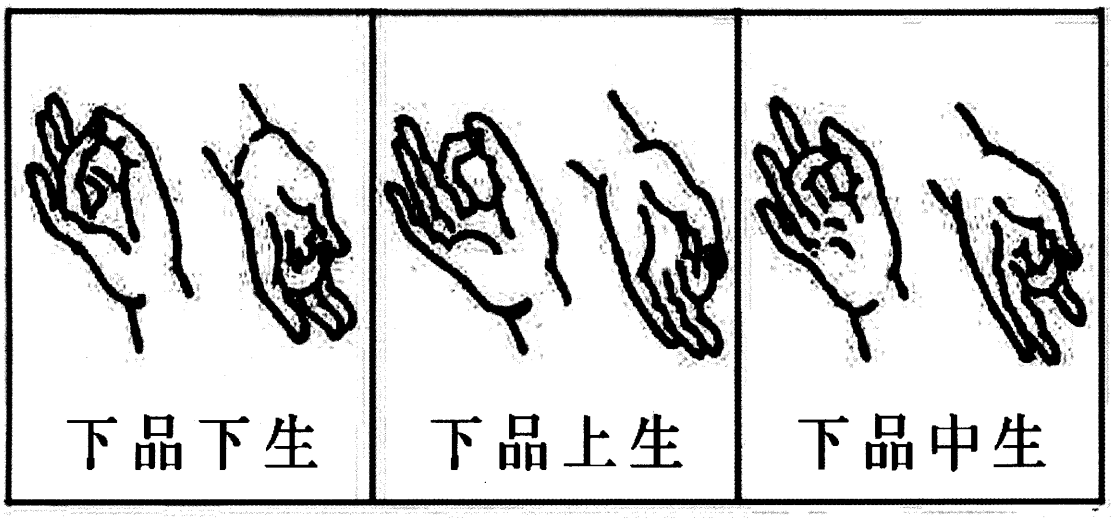
お申込みお問い合わせは、淨眞寺03-3701-2029まで。

只今、九品阿弥陀佛の大修繕大勧進を行っております。
大勧進にご結縁下さい。

2018. 3. 5,000

げ　ぼん　どう

下品堂



浄眞寺

東京都世田谷区奥沢 7-41-3

「観無量寿経」の九品について

浄土宗の所依の経典である浄土三部経の中の「観無量寿経」には、極楽に往生を願う人の性質や行業（行為）によって、九種に分けられた往生人の階位について説明されております。

またこの階位に応じて往生のありさまや往生後の得益についても、それぞれ相違が生じて参ります。

ここでいう九種の階位とは、上品・中品・下品という三つの階位のそれぞれを、更に上生・中生・下生に分けて、上品上生から下品下生までの九階位としたものであります。これを行業の面に限って略説しますと……

下品上生とは・・・

悪業を重ねて慚愧懺悔する事がないが、この人は臨終に善知識より、大乗経典の名字を讃ずるのを聞き、また合掌叉手して南無阿弥陀仏と称える事ができた人であります。

やがて五十億劫の罪が消えて、化仏・化観音・化大勢至の来迎をうけて**宝蓮華に乗じて往生**され、**七七日を経て華がひらき**、観音・勢至の両菩薩より教えを聞いて、十小劫①を経て初地の位②に入るといわれます。

下品中生とは・・・

五戒・八戒・具足戒③を犯し、教団の共有物を盗んだり、名聞利養のための説法をしたりして、臨終には地獄の猛火にせめられる人であります。

この時に善知識から阿弥陀仏の十力や光明の威神力を聞いて命終致しますと、八十億劫の罪を滅し、**化仏・化菩薩の来迎をうけて往生**されます。そして**六劫**①**の間を経て蓮華が開き**、観音・勢至より教えをうけて菩提心④をおこすといわれます。

下品下生とは・・・

十悪罪⑤を犯し、当然地獄に堕するような悪業を重ねたものであるが、幸いにも教えをうけ、南無阿弥陀仏ととなえて十念を具足した人であります。

それによって八十億劫の生死の罪が消えて**金蓮華を見て往生**されます。そして**十二大劫**①**を経て蓮華が開き**、観音・勢至より教えを聞いて菩提心をおこすのであります。

① 十小劫・六劫・十二大劫　　きわめて長い時間の単位

② 初地の位　　菩薩の階位で第52位中第41位

③ 五戒・十戒・具足戒　　不殺生戒・不偸盗戒・不邪婬戒
不妄語戒・不飯酒戒　など・・・

④ 菩提心　　悟りを求める心

⑤ 十悪罪　　身、口、意で犯す殺生（命あるものを殺す）・偸盗（ぬすみ）・邪婬（みだらな男女関係）・妄語（うそいつわり）・両舌（人を仲たがいさせる言葉）・悪口（汚いののしりの言葉）・綺語（誠でない飾った言葉）・貪欲（むさぼり）・瞋恚（いかり）・愚痴（おろかさ）

九品佛縁起から大正大学名誉教授 大本山 善導寺法主阿川文正台下 記述より抜粋
（詳しくは九品佛縁起（有料）をご覧下さい）

上品上生（じょうぼんじょうしょう）の往生（おうじょう）を願いましょう

私達は亡き方々とは、この世で二度と再会することが出来ません。亡き人はどうなるのでしょうか？

生前に阿弥陀佛にすがり、お念佛を称えた人であれば、阿弥陀佛の本願の力により、極楽浄土の蓮華中に往き生まれることが出来ます。

九品往生中、上品上生に往生の人は、蓮華が即開きますが、上品各生に往生できる人は、極稀でしょう。

下品下生に往生の人は、蓮華が開くまでに極めて長い時がかかると言われております。

そこで、亡き人が極楽浄土に往生し、蓮華が開く喜びの日が一日も早く訪れることを願い、残された私達が法事を勤め、念佛を称えて亡き人の為に、念佛の功徳をご廻向させて頂くのです。

そしていずれ、故人と極楽浄土での再会を期するのです。

上品は、大乗に遭える凡夫、中品は、小乗に遭える凡夫、下品は、悪に遭える凡夫と各々に遭遇するご縁によっています。

しかも九品の総ては凡夫であると法然上人は教示します。

今私もここに大乗の究竟、念佛に値遇を得ました。さあ念佛申し上品往生を願いましょう。

更に幸いにも淨眞寺には、「二十五菩薩来迎会」の伝統行事があります。この行事は、まさに上品上生に往生する様姿そのものであります。

亡き方のお位牌を抱き、菩薩行者を勤めることは、何にも代え難きご供養となり、品位の増進、又早くに蓮華が開くことになりましょう。

この菩薩行者を勤められた方々は諸佛・諸菩薩の護念を蒙り、父母であれば無上の報恩行、夫婦であれば無上の謝恩行、またご自身の積徳行として、老若男女問わずお申込み出来ます。

次回の奉修は2020年5月5日です。

お申込みお問い合わせは、淨眞寺03-3701-2029まで。

只今、九品阿弥陀佛の大修繕大勧進を行っております。
大勧進にご結縁下さい。

2018. 3. 5,000